

## 博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	名古屋大学	整理番号	R02
プログラム名称	実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム		
プログラム責任者	藤巻 朗	プログラムコーディネーター	武田 一哉

### 博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

#### [総括評価]

計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

#### [コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、学位論文に「研究が創造する実世界データ循環およびその社会的価値」を論ずる章を設けることを義務付け、当該章を企業からの招へい審査委員を加えたプログラム修了審査委員会で事前に査読する仕組みを構築したことは高く評価できる。プログラムと産業界との協調を図る「実世界データ循環コンソーシアム」を立ち上げ、組織的に実事業課題をベースにした実践的な教育機会を学生に提供し、企業課題を解決している点は学生と企業双方のメリットとして評価できる。また、学位論文を教科書「実世界データ循環学概論」として出版予定であり、実世界データ循環学の体系化への貢献として評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、本プログラムを通じて、起業志向の学生集団が形成され、「博士課程に進学し、専門を生かして仲間を募り起業する」という新しい博士キャリア像を学生に定着させることができたことは、計画を超えた取組として大いに評価できる。学生が平成 31(2019)年 3 月までに起業した会社（プログラムベンチャー）は 9 社に上り、しかも単に起業しただけではなく、1 億円以上の資金調達を得て、事業を拡大発展させている修了者もいる。また、起業学生ネットワークが構築されるとともに、プログラムベンチャー 9 社の合計雇用数が 100 名を超えたことは評価できる。一方、第 1 期生 13 名のうち、2 名が大学専任教員、2 名がポストクとアカデミアにも進出し、バランスのとれた就業状況である。なお、修了者及び学生アンケート結果において、多くの項目で総じて高い評価を得ていることは、修了者及び学生にとって非常に優れたプログラムであることの証左であると考えられる。

事業の定着・発展については、支援期間終了後も、全学組織の下で確保できている予算を踏まえて、これまでと同等のカリキュラムで、募集定員も 5 名（平成 30(2018)年度及び令和元(2019)年度）から 10 名（総定員 50 名）としてプログラムを継続させることは評価できる。さらに、これまでの学位記にプログラムの修了を付記する形式から、支援期間終了後においては、学位プログラムとして発展させる計画があり、高く評価できる。